

## 研修会・ワークショップ参加者の意見や感想を紹介します

## 「男女格差解消に向けて実践できること」

市では、ジェンダーギャップ(社会的文化的な男女格差)解消の必要性について理解を深めてもらうため、立教大学教授 <sup>はきわら</sup>萩原なつ子さんを招き、研修会やワークショップを開催しました。

《問合せ》ジェンダーギャップ対策室 ☎21-9004

## 地域コミュニティ組織 地域づくりリーダー研修会

5月28日に29の地域コミュニティ組織を対象とした研修会を開催し、会長、役員、地域マネージャーなど80人が、10会場に分かれてオンラインで参加しました。「女性が地域づくりにもっと参加・参画するためにはどうしたらよいか」をテーマにワークショップを行い、明日から実践する取組みを考えました。3月には振り返りの研修会を開催する予定です。

## ■地域で実践すること(主な意見)

- ・会議や事業は、参加者の出やすい時間帯や曜日に設定する
- ・若者や女性の意見を取り入れる
- ・役員が男女半々となるよう依頼する
- ・リーダーを育成する

## 保育園・幼稚園・認定こども園の職員 ジェンダー視点のある保育・教育を考える研修会

10月19日、11月16日に研修会を開催し、市内の公私立の職員42人が参加しました。



誰もが持っている無意識の偏見や思い込み、固定観念への気付きから現場を振り返り、ジェンダー視点のある保育・教育に向け、どのような取組みができるのか考えました。

## ■研修会で気付いたこと(主な感想)

- ・保育の中で何気ない言葉や関わりに男の子・女の子を無意識に決めつけていることがあることに気付いて良かった
- ・子どもたちの「選択」を尊重し、思いに耳を傾けることが重要であることを学んだ

## 但馬地域在住の方 ジェンダーギャップを考える意見交換会

8月21日に但馬在住の方を対象に意見交換会を開催し、男女23人が参加しました。暮らしの中にある固定的な男女の役割や機会の差について考え、ジェンダーギャップの根底にある無意識の偏見(注1)に気付き、職場・家庭・地域での実践に向けて「当事者」としてできることを考えました。

## ■暮らしの中で感じるジェンダーギャップ(主な意見)

- |      |   |
|------|---|
| 意識など | ・男は女を守るもの ・結婚と出産のプレッシャー ・小さいころからの刷り込み<br>・出る杭は打たれる(女性は出しゃばらないほうが良い) ・本人たちの意思が尊重されない |
| 地域   | ・地区の3役や隣保長は男性 ・地区の会議などに女性の出席が少ない ・村文化(男社会)<br>・議員の男女比のバランス(女性が少ない)                  |
| 職場   | ・管理職は男性、補助・補佐の作業は女性 ・お茶出し、トイレ掃除は女性<br>・残業が多い部署には男性が配属されることが多い ・男女間の賃金格差             |
| 家庭   | ・家の代表名は男性(届出人・保護者・世帯主など) ・家事や子育ての割合が女性>男性<br>・男の子を産んでくれてうれしいと言われた                   |

## ■ジェンダーギャップ解消のため必要なこと(主な意見)

- ・無意識であることを意識する
- ・コミュニケーションと対話(話し合い、納得、感謝)
- ・多世代が交流する仕組みをつくる
- ・社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)(注2)

(注1)「無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)」誰もが潜在的に持っているバイアス(偏見)のこと。育つ環境や所属する集団の中で知らず知らずのうちに脳に刻み込まれ、既成概念、固定観念となっていく。(注2)「社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)」誰もが社会に参画する機会を持ち、排除されないこと。

※掲載している情報は編集時点(2月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

性別に関係なく支え合う地域づくりを目指して

# 変化してきた地域の意識

Vol.2

男女の違いで生じている格差(ジェンダーギャップ)解消の取組みは地域コミュニティでも精力的に進められています。今回はきらめき日高の取組みを紹介します。

《問合せ》ジェンダーギャップ対策室 ☎21-9004



▲きらめき日高の役員の方皆さん。会議では、みんなが遠慮なく話せる雰囲気づくりを常に心掛けている

## きらめき日高

日高地区の地域コミュニティ。人口7,544人、3,055世帯。18区で構成(2021年4月現在)。役員や企画委員の約3割が女性。みんなが遠慮なく意見が言え、メンバー全員が楽しむことを第一に活動している。

### 地域づくりの推進には 女性や若者の声を 聞くことが大切

多くの女性が活躍できる体制をどのようにつくりましたか

(西村会長) 2015年、これまでの地区公民館から主体的に地域づくりや課題解決を行うコミュニティに移行する動きが全市的にありました。

私たちの地区では、地域づくりをもっと勉強するため、検討委員会のメンバーや関係団体の方と一緒に、市の地域コミュニティアドバイザーの作野広和先生(※)を迎え、懇談会を開催しました。そこで女性や若者の声を聞き、取り入れることの重要性を教わりました。すぐに女性の人選を行い準備委員会の委員を打診したところ、皆さん快く受けてくださり、今があります。本

当に人に恵まれたと感じます。また、役員への登用など、女性の参画に努めることを規約に決めました。

女性として役員を受けるにあたって不安はありませんでしたか。また家族の反応はどうでしたか

(木村副会長) 私も以前から作野先生の話を伺い、立ち上げ準備のワークシヨップの参加者構成が偏っているのを見て心配していたところだったので、引き受けました。他にもいろいろ活動していたので、家族には特に何も言っていなかったような気がします。

(前野人づくり部部长) 我が家で引き受けることを相談しました。不安もありましたが、声が掛かったとき、地域づくりに関心があったので受けました。

実際役員をしてみてもの感想は

(木村副会長) 地域の役員経験がないと分からないことも多く、よく素朴な質問を投げかけてくれましたが、いつも丁寧に教えてくれました。最初は少し不安でしたが、おかげで安心して参加できました。その雰囲気は今も続いていて、男女ともに意見が言いやすく、参加しやすい環境だと思います。

他人を思いやる気持ちがあればうまくいく

女性が会議などに参加しやすくするため、開始時間などを考慮していますか

(木村副会長) 男性だから女性だからでは考えていません。参加される皆さんの仕事や家庭の事情を考慮して決めます。

(西村会長) 男女に関わらず他人を思いやる気持ちを大切にしたら問題は起こらずうまくいきます。

これまでの活動で男女のことに  
関して印象的な出来事は

(中場事務局長) 先日コミュニティ活動で焼き芋を作りました。火を起す人、芋を洗ってアルミホイルに包む人、いろんな仕事がありました。男女で役割分担せず、スタッフみんなが、自分のやりたいことをしたのが印象的でした。

助け合いの意識醸成と  
次世代の人材発掘にまい進

ジェンダーギャップ解消に向けた今後の展望は

(西村会長) 男女に関わらずみんな力で合わせ助け合う意識を日高地区全域に広げることが目標です。そのため、女性はもちろん、まちづくりに関わってくれる次世代を担う若者が一人でもたくさん増えるような活動を展開していきます。

※島根大学教授。11年に但東町の地域づくりに関わり、以降本市の新しい地域コミュニティづくりに関わる

※掲載している情報は編集時点(2月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。